

ヒューマンサービス教育の在り方とその技術向上についての研究

熊本県立矢部高等学校 教諭 小田原 健

1 はじめに

この部会は、「家庭」、「生物活用」、「グリーンライフ」の3つの内容を柱としている。それぞれが、別々の分野であるとともに科目の内容も幅広いため、研修内容を決めることが難しい現状がある。平成26年度から28年度までの3年間は「ヒューマンサービス教育のあり方と、その技術向上についての研究」と題して、特に家庭科保育分野に重点をおき、研究・協議を行ってきた。

2 研究の経過

1 第1回専門部会

(1) 日時及び場所：平成29年6月9日（金） 熊本県立熊本農業高等学校

(2) 参加者：12名

(3) 内 容：協議「これまでの取り組みと今年度の活動について」

～生活・ヒューマンサービス部会研究の歩み～

ア 昨年度までの取り組みの検証

ヒューマンサービス部会には農業科と家庭科の先生方が所属され、平成26年度から28年度までの3年間は「家庭（保育分野）」に重点をおき、研究・協議を行ってきた。大学教授やソーシャルワーカー、幼稚園園長などによる講話や参加者による協議を行う事により、実践につながる一定の成果を上げることができた。

イ 今年度の研究テーマ

29年度からは家庭科保育分野に限定せず、農業科と家庭科に共通するテーマの設定を望む声が多く出された。今年度はヒューマンサービス教育の在り方とその技術向上についての研究のなかでも特に「生物活用」、「グリーンライフ」に関する交流活動とその評価の方法に絞った研究を行うこととした。

ウ 第2、3回の研修内容についての検討

震災復興を中心に据えて、「生物活用」の園芸療法や「生活と福祉」をリンクさせた研修、「グリーンライフ」のグリーンツーリズムや「フードデザイン」をリンクさせた内容の研修などの要望が多くあがった。

2 第2回専門部会

(1) 日時及び場所：平成30年1月23日（火） 熊本県立天草拓心高等学校本渡校舎

(2) 参加者：10名

(3) 内 容：研修1（実践発表）「交流活動から生まれる絆～今私たちにできること～」

講 師：天草拓心高等学校 牛田 寿司教諭

研修2（研究協議）「第3回研修に基づいた授業デザイン会」

研修3（研究協議）「交流活動における評価方法について」

(4) 研修概要

研修1（実践発表）「交流活動から生まれる絆～今私たちにできること～」

熊本地震で傷ついた児童の心のケアと生徒のコミュニケーション能力の向上を目的として、昨年度行った交流会について牛田教諭が発表された。小学生との交流の事前学習アンケートで、「めんどくさい」とか「どうやって児童に接したら良いのか分からない」と感

じていた生徒が、交流活動後のアンケートでは、「コミュニケーション能力をもっと高めたい」とか「保育に関する興味・関心が高まった」と答えるなど生徒たちの気持ちに変容があったことが紹介された。

研修2（研究協議）「第3回研修に基づいた授業デザイン会」

2月23日（金）に予定されている交流学習会の授業デザインについて研究協議を行った。まず、顧問の松坂校長に、科目「生物活用」の学習指導要領解説から読み取れる交流活動の組み立て方についてのポイントを示していただいた。そのことを踏まえ、それぞれの参加者の経験を基に、より交流が深まるように、「バディシステムを取り入れては」とか、児童の満足感や達成感が高まるように「家庭科の科目とコラボして、『頑張ったで賞バッチ』を手作りし、交流会の最後にプレゼントしては」等、たくさんのアイデアが出された。

研修3（研究協議）「交流活動における評価方法について」

交流活動における評価方法について参加者全員で検討を行った。顧問の中野校長からは「ポートフォリオ」や「ルーブリック」等のパフォーマンス評価の方法や事前事後アンケートから分析評価できるソフト「トラスティア」の活用法等について細やかな説明を頂き、自己評価や評価者評価等のあり方について学ぶことができた。参加者の協議から、評価項目を設定するには、生徒の現状を知り、到達目標をどこに設定するかが重要であること、また、短時間の交流の中で、4観点すべてを評価するのは難しいため、観点を絞り、評価項目を主観が入らないより具体的な基準に設定することで、実態にあった評価ができることを共通認識することができた。



【研修1 実践発表】



【研修2 研究協議】

3 第3回「生活・ヒューマンサービス部会」予定

(1) 日時及び場所：平成30年2月23日（金） 熊本市立健軍小学校

(2) 内 容：（交流活動実践）「交流活動から生まれる絆～今私たちにできること～」

講 師：天草拓心高等学校 牛田 寿司教諭

3 まとめ

今年度の専門部会では、天草拓心高校牛田教諭の交流活動をとおして、「生物を活用した療法」や「生物活用の実際」について検討・検証を行うことができた。日頃設定している目標や評価基準を、より具体的な基準に設定することにより、教育効果を高めることに繋がること、交流活動の組み立て方など、これからの教育活動につながる有意義な研修を行うことができた。今後も單元ごとの評価についての研修を実施し、データを蓄積していきたいと思う。